

国語科学習指導案

日時 平成27年6月5日(金) 第2校時
対象 2年4組(男子19名 女子20名 計39名)
指導者 教諭 眞邊 剛

1 単元(教材)名 朗読で読み深めよう (「平家物語」中学生の国語2年 三省堂)

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代社会は、情報通信技術の発達により、多様な方法で他者とコミュニケーションを図ることができるようになった。特に携帯電話やスマートフォンなどによるメールやSNSの利用は、コミュニケーションの相手となる対象を広げ、多様なコミュニケーションを生み出している。しかし、機器を利用したこのようなコミュニケーションは、用件を一方的に伝えるものであったり、伝える相手が明確に意識されないものであったりすることも多い。また、絵文字や省略された表現が多用されているため、受け手が一方的に解釈してしまい、発信者の思いや考えを十分に理解しきれない場合も多い。このようなコミュニケーションは、相手を目の前にした会話にも影響を与えており、一つ一つの言葉の意味を吟味して表現したり、言葉に込められた思いや考えを深く考えて理解したりすることを苦手とする人が増える傾向にある。

このような状況は中学生も例外ではなく、思いや考えを自分の言葉できちんと相手に伝えられない生徒や、相手の言葉に込められた思いや考えを適切に捉えることを苦手とする生徒も少なくない。

そこで、文章の読解を通して、用いられている語句や表現から思いや考えをより深く読み取る力を高めさせたいと考え、本単元を設定した。

本単元では、「平家物語」の「敦盛の最期」を朗読する言語活動を設定する。「平家物語」は平曲として琵琶法師によって語り継がれてきた作品である。そのため、黙読よりも朗読の方が作品の良さを実感することができる。

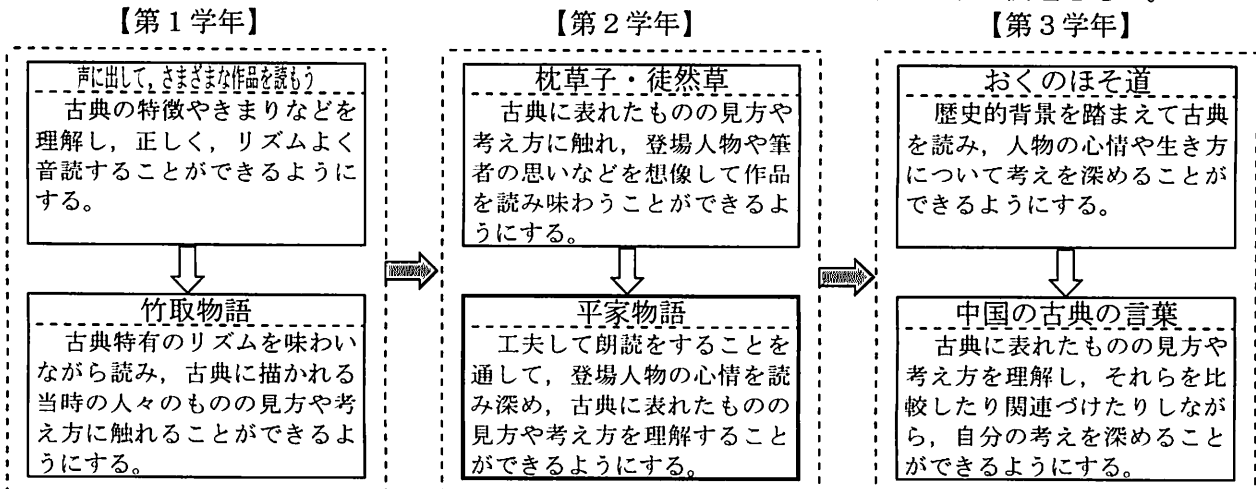
「敦盛の最期」は、武士としての誇りや功名心、子を持つ親としての気持ち、敵を前にしての葛藤、敵を倒した後悔の気持ちなどが、登場人物の言動を表す語句や表現によって巧みに描かれている。そのため、用いられている語句の意味や、語句や表現の文脈における役割を考えながら、人物の心情を読み取っていくのに適した教材である。

具体的には、まず、4人グループで「敦盛の最期」の場面ごとの朗読に取り組ませる。一つの場面を4人で朗読する活動を通して、一人一人の考えや意見を出し合いながら朗読を工夫し、その過程で登場人物の心情を読み取っていく。次に、各場面を担当した5人で新たなグループをつくらせ、「敦盛の最期」全体を通した朗読をさせる。場面ごとに工夫したことを持ち寄り、一つの物語として朗読を完成させることによって、多様な考え方に触れ、心情をより深く理解していくことができると考える。

このような学習を行わせることによって、用いられている語句や表現から、その人物の心情を読み取ろうとする態度を高めることができる。また、他者と「対話」を行うことによって考えを広げたり深めたりする活動を通して、創造的に思考する力を高めることができる。

(2) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成と系統とにおいて以下のような関連をもつ。



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

(1) 「平家物語」に描かれる登場人物の心情を読み取り、それらを効果的に伝えるために、工夫して朗読をしようすることができる。 (国語への関心・意欲・態度)
(2) 登場人物の心情を効果的に伝えるためにはどのように朗読をすればよいかについて、建設的に話し合うことができる。 (話す・聞く能力)
(3) 登場人物の言動や様子を表している語句や表現に着目して読む活動を通して、登場人物の心情を深く理解することができる。 (読む能力)
(4) 朗読を工夫し、登場人物の心情を理解する活動を通して、今と昔の共通点や相違点に気づき、古典の世界を楽しむことができる。 (伝統的な言語文化に関する事項)
(5) 用いられている語句や表現にこだわりながら読む活動を通して、古典のリズムを味わうとともに、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。 (言語についての知識・理解・技能)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 登場人物の心情を読み取り、それらを効果的に伝えるために、進んで朗読に取り組もうとしている。 ② 登場人物の心情を効果的に伝える朗読にするために、人物の心情や朗読の仕方について、進んで話し合おうとしている。	
話す・聞く能力	③ 登場人物の心情を効果的に伝える朗読の仕方について、建設的に話し合っている。 ④ 他のグループからのアドバイスを生かして、登場人物の心情をより効果的に伝える朗読にするための改善策について話し合っている。	オ 話し合うこと
読む能力	⑤ 登場人物の言動や様子を表している語句や表現に着目して読む活動を通して、登場人物の心情を読み取っている。 ⑥ 登場人物の心情を効果的に伝えるために、工夫して朗読している。 ⑦ グループで改善策を話し合い、登場人物の心情をより効果的に伝えるための朗読を練り上げる活動を通して、文章中の一つ一つの語句の意味や、その語句が文脈の中で果たす役割を理解し、心情をより深く読み取っている。	ア 語句の意味の理解 イ 文章の解釈
伝統的な言語文化に関する事項	⑧ 朗読の仕方を考え、登場人物の心情を理解する活動を通して、今と昔の共通点や相違点に気づき、自分のものの見方や考え方を広げて古典の世界を楽しんでいる。	ア 伝統的な言語文化に関する事項
言語についての知識・理解・技能	⑨ 用いられている語句や表現にこだわりながら読む活動を通して、古典のリズムを味わうとともに、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。	イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (1)

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

生徒はこれまでに、文学的文章の学習において、一つ一つの語句や表現にこだわって読むことによって、登場人物の言動の意味を考えたり、心情を読み取ったりする力を高めてきている。

また、古典の学習において、古典の特徴を知り、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像しながら読む力を高めてきている。

さらに、本学級では、具体的に次のような実態が見られる。

- ほとんどの生徒が、用いられている語句の意味を理解して登場人物の心情の読み取りに生かすことができる。しかし、文脈における語句の役割を考えて内容の理解を深めることができない生徒や、心情の読み取りの根拠となる語句や表現に気付いても、そこから心情を読み取ることができない生徒が見られる。
- ほとんどの生徒が、古典の特徴を知り、古典のリズムを味わいながら、語句の意味やまとまりに着目して音読し、内容を理解することができる。しかし、語句のまとまりを捉えられないために音読を苦手とする生徒や、語句の意味を捉えられずに内容を十分に理解することができない生徒も見られる。

このような実態から、指導に当たっては、「敦盛の最期」の登場人物である直実の心情を読み取り、それらを効果的に伝えるために工夫して朗読させることによって、語句の意味や役割を理解して文章を読み深めることの大切さに気付かせたい。また、グループで朗読に取り組みさせることによって、音読を苦手としたり、内容を十分に理解できなかつたりする生徒にも古典を学習する楽しさを味わわせたい。さらに、作品に描かれる人物の心情や作者のものの見方や考え方に触れさせることによって、人の心情や生き方は今も昔も変わらないことに気付かせ、古典を読み味わう楽しさを実感させたい。

イ 本校の研究内容との関連から

本校国語科では、自ら思考し、判断したことを客観化させたり、思考を深めさせたりするために、「対話」を重視している。「対話」をすることによって、自分のものの見方や考え方が広がったり、深まったりするとともに、よりよい考えや新しい考えを構築するために一人一人が創造的に思考すると考えるからである。本単元では、どの生徒もよりよい考えや新しい考えを構築することができるようにするために、グループでの「対話」を重視することにした。

① 「対話」の活性化の工夫～「対話」の目的や観点の明確化～（※ 手立て(7)・(9)は省略) (イ)「対話」のゴールの設定

本単元では、「登場人物の心情を効果的に伝える朗読を創る」というゴールを設定する。グループで登場人物の心情を効果的に伝える朗読をするためには、自分たちの目指す朗読の在り方を明確にして、どの語句や表現に着目し、どのような工夫をするかについて、詳細に検討する必要がある。生徒は、読み取った心情を効果的に伝えるための朗読の仕方についてそれぞれの考えや意見を出し合い、朗読を練り上げていく。その過程でグループでの「対話」が活性化されるものとする。

② 「対話」の深化の工夫～全員参加型「対話」の工夫～（※ 手立て(7)・(9)は省略) (ウ)協働による活動の工夫

本単元では、協働で朗読の仕方について考えさせ、朗読を創らせる。ステージⅠでは、4人でグループをつくらせ、各グループが5場面中のいずれかの場面を担当することとし、その場面の朗読の仕方について「対話」をさせる。4人で効果的な朗読を行うために、それぞれが考えや意見を出し合う過程で「対話」が深化される。また、ステージⅡでは、ステージⅠで各場面を担当した5人で新たなグループをつくらせ、全体を通した朗読に取り組みさせる。ステージⅠで得た考えや意見を持ち寄って、自分たちが目指す朗読に練り上げる過程で「対話」が深化される。

このように、協働による活動を通して朗読を工夫させることによって、より効果的な朗読にするために全員が「対話」に参加するため、「対話」が深化されると考える。

(イ)役割と責任の明確化

ステージⅡでは、朗読をつくる際に、ステージⅠで各場面を担当した生徒をその場面の責任者とする。ステージⅠでの学習の成果をステージⅡで生かすために、それぞれの生徒が責任を担うことになり、「対話」が深化される。

さらに、ステージⅡでは、二つのグループで朗読を評価し合う活動を設定する。具体的には、他のグループの朗読をより効果的にするための改善策を考えさせ、アドバイスさせる。生徒は、他のグループの改善策を見出すために「対話」をし、また、自分たちのグループの朗読についても、受けたアドバイスの適否を検討しながら、より効果的な朗読に練り上げる過程で「対話」をするために、「対話」が深化されると考える。この相互評価を行う際には、一つのグループを二つに分け、アドバイスを相手に伝える役割と、相手からアドバイスを聞き、グループのメンバーに伝える役割を担わせる。そうすることによって、自分の責任を果たすためにグループ内での「対話」により真剣に取り組んだり、相手のアドバイスを理解し、納得するまで相手と「対話」を行ったりすることになる。

(2) 単元の指導計画 (全13時間)

単元	主な学習活動	時間	指導にあたっての手立て	評価
導 入	1 朗読の仕方について確認する。 2 単元の学習目標及び学習の流れについて確認し、「平家物語」の全体像を捉える。	1	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な朗読についてのイメージをもたせるために、参考となる朗読を聞かせる。 朗読を工夫することによって、登場人物の心情をより深く読み取っていく学習であることを確認させる。 学習の見通しをもたせるために、学習目標、及び学習の流れを確認させる。 「平家物語」の全体像や特徴を捉えさせる。 	
	3 「敦盛の最期」の全文を読み、話の内容を捉える。	1	<ul style="list-style-type: none"> 「敦盛の最期」の原文と現代語訳を読み、話の内容を理解させる。 	評価規準 ⑤⑨ (観察)
展	4 直実の心情の変化を読み取る。	1	<ul style="list-style-type: none"> 用いられている語句や表現を根拠にしなが、直実の心情を分析させる。 	評価規準 ⑤⑨ (観察・ワークシート)
	5 ステージⅠの朗読に取り組む。 (1) 各グループが担当する場面を決定し、直実の心情を効果的に伝えるための朗読の仕方を考える。 (2) 直実の心情を効果的に伝えるために工夫して朗読する。 (3) モデルグループが朗読を発表し、良い点や改善点を全体で検討する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 4人グループを10グループづくり、5つの場面をそれぞれ2グループに担当させる。 朗読を工夫する際の観点を確認させる。 直実の心情が表れている語句や表現をチェックさせ、直実の心情を効果的に伝えるために、どのように工夫して朗読するかを書き込ませる。 	評価規準 ①②③⑥⑧ (観察・ワークシート)
		1	<ul style="list-style-type: none"> モデルとなる2グループに朗読を発表させ、その朗読を比較させながら、直実の心情とそれに合った朗読の仕方について考えさせる。 2グループそれぞれの朗読に、どのような工夫が見られたかをグループ内で確認させ、その工夫が直実の心情を効果的に表していたかを検討させる。 モデルとなった2グループには、自分たちの朗読と、もう1グループの朗読とを比較させ、その共通点や相違点について考えさせる。 朗読の工夫を考える際に重要なことは何かについて、まとめさせる。 	
	6 ステージⅡの朗読に取り組む。 (1) グループごとに「敦盛の最期」の全場面の朗読の仕方について考える。 (2) 練習をする。	2	<ul style="list-style-type: none"> ステージⅠで各場面を担当した5人で新たなグループをつくらせ、全場面の朗読の仕方について考えさせる。 グループごとに、どのような朗読を目指すかを決めさせ、朗読の仕方を考えさせる。 (例) 親として子を思う直実の気持ちが聞き手にしみじみと伝わるような朗読にする。 	評価規準 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ (観察・ワークシート)
	(3) より効果的な朗読にするために修正をする。 ア 相互評価を行い、改善点と改善策を明確にする。	1 (特)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループが目指す朗読を確認して、二つのグループで、互いの朗読を評価させる。 対話を活性化させ、さらに、焦点化させるために、個々の意見を付箋紙に書かせ、それを基にグループの意見を練り上げさせる。 グループを二つに分け、アドバイスを伝える役割と、アドバイスを聞き取る役割を与える。 アドバイスを吟味し、改善策を検討させる。 	
	イ 改善策を基に朗読を修正する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループからのアドバイスを基に、自分たちの朗読を見直し、具体的な改善策を話し合いながら修正させる。 	
(4) 改善策を基に朗読を練習する。 (5) 朗読を発表する。	2	<ul style="list-style-type: none"> 話し合った改善策を基に練習させる。 自分たちの目指す朗読にするためにどのような工夫をしたかを明確にしたうえで、朗読を発表させる。 ステージⅠでの学習や、相互評価によるアドバイスが生かされているかを確認するために、互いの朗読について評価を書かせる。 		
終 末	7 学習のまとめを行う。	1	<ul style="list-style-type: none"> 用いられている語句や表現に着目して朗読を多様に工夫することによって、登場人物の心情を深く読み取ることができることを確認させる。 対話によって、考えや意見を練り上げることの大切さを実感させる。 	

5 本時の実際 (9/13)

(1) 指導目標

「敦盛の最期」に描かれる登場人物の心情を効果的に伝えるための朗読を評価し合い、互いのグループの修正点や改善策を明確にする活動を通して、語句や表現にこだわって登場人物の心情を読み取る力を高めることができる。

具体的には、評価規準の⑤に即して、次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	相手グループの朗読の修正点や改善策を検討する活動を通して、文章中の一つ一つの語句の意味や、その語句が文脈の中で果たす役割を理解し、心情をより深く読み取るとともに、自分たちのグループの朗読をよりよくするための改善策を具体的に考えることができる。
おおむね達成されている	相手グループの朗読の修正点や改善策を検討する活動を通して、文章中の一つ一つの語句の意味や、その語句が文脈の中で果たす役割を理解し、心情をより深く読み取っている。
達成していない生徒への手立て	ステージⅠにおけるモデルグループの朗読を改善した際の視点を確認させ、どの語句や表現にこだわって、どのような工夫を取り入れることができるかを検討させる。

(2) 目標行動 (G)

グループ同士で互いの朗読を評価し合い、修正点や改善策について話し合う活動を通して分かったことを、たとえば次のように発表することができる。

- ・ 相手グループの朗読をよく聞き、修正点や改善策を考えることで、人物の心情を考える際にどの語句や表現が大事であるのかを考えることができ、直実や敦盛の心情をより深く理解することができた。
- ・ アドバイスを受けたことで、自分たちがこだわっていなかった語句にも直実の心情が強く表れていることに気付いた。その部分にどのような工夫を取り入れたらよいかをグループで話し合っていきたい。
- ・ 強弱や間の取り方、緩急の付け方など朗読には多様な工夫の仕方があり、登場人物の心情を深く読み取るほど、その場面や状況に合うのはどのような工夫なのかを細かく考えていくことができることが分かった。

(3) 下位目標行動

① 自分たちの朗読の修正点について、全体場で、例えば次のように発表することができる。

- ・ 「あつばれ、大將軍や」の部分から相手への尊敬の思いや感心する気持ちが伝わるように工夫したら良いとアドバイスを受けたので、抑揚や間の取り方について検討していきたいと思う。
- ・ 「あはれ、助けたてまつらばや」をもっと抑揚をつけてゆっくりと読んだらいいとアドバイスを受けた。直実の親心が表れているところなので、もっとしみじみと実感を込めて読めるように工夫していきたい。
- ・ 全体的に早口で、盛り上がりがないと指摘を受けた。直実の相手を慈しむ気持ちと、敦盛の堂々とした武士らしさが対照的に表れるように、抑揚や読む速さに気を付けて改善していきたい。

② 相手グループからのアドバイスを基に、自分たちの朗読を見直し、修正点と改善策を明確にすることができる。

③ 相手グループからのアドバイスをグループ内で共有することができる。

④ グループで話し合ったことを基に、相手のグループにアドバイスを的確に伝えることができる。

⑤ 付箋紙に書いたことを基に、グループで相手グループの修正点やその改善策について話し合い、まとめることができる。

⑥ 相手グループの朗読を聞き、良い点や修正点を付箋紙に書くことができる。

⑦ 交互に朗読を行うことができる。

⑧ 相手グループの目指す朗読について確認することができる。

⑨R 本時の学習課題が、「朗読をより効果的にするためには、どのように改善すればよいだろうか。」であることを確認することができる。

⑩R 本時の学習目標が、「朗読の工夫を考えることによって、直実や敦盛の心情をより深く読み取ろう。」であることを確認することができる。

⑪R 「敦盛の最期」の一部分を音読することができる。

⑫R 前時までの学習を振り返り、既習事項を想起することができる。

(4) 本時の実際

時間	学習過程	指導上の留意点	評価活動
5'	<p>スタート</p> <p>前時までの学習を振り返る。 1</p> <p>(12R, 11R)</p> <p>本時の学習目標と学習課題, 学習の流れを確認する。 2</p> <p>(10R, 9R)</p>	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> 「敦盛の最期」の一部分を音読させ、前時までの学習を確認させる。 本時は、互いに朗読を評価し合い、アドバイスを伝え合うことによって、より効果的な朗読にするための修正点や改善策を明確にする学習であることを確認させる。 <p><学習目標></p> <p>朗読の工夫を考えることによって、直実や敦盛の心情をより深く読み取ろう。</p> <p><学習課題></p> <p>朗読をより効果的にするためには、どのように改善すればよいただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互評価の流れを確認させる。 	
10'	<p>二つのグループで交互に朗読を行い、個人で評価する。 3</p> <p>(8, 7, 6)</p>	<p><展開></p> <ul style="list-style-type: none"> 相手グループの「目指す朗読」と「工夫のポイント」を確認させる。 相手グループの朗読を聞きながら、付箋紙に良い点、修正点を書かせ、自分の考えを明確にさせる。 	<p>○ 朗読を聞き、登場人物の心情に合った朗読の工夫の適否について考えることができたか。(観察・ワークシート)</p>
15'	<p>個人の評価を基に、よりよい朗読にするための修正点や改善点についてグループで話し合う。 4</p> <p>(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> リーダーを集め、グループでの話し合いの目的と進め方を伝える。 一人一人に自分の役割と責任をもたせるために、グループで話し合ったアドバイスを相手に「伝える役割」と、相手からのアドバイスを「聞く役割」に分けさせる。 話し合いを焦点化させるために、同じ意見をグルーピングさせ、異なる意見を吟味させながら、相手グループへのアドバイスを練り上げさせる。 特に、黄色の付箋紙(修正点)が多かった部分を中心に具体的なアドバイス(改善策)を話し合わせる。 <p><達成していない生徒への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ステージIにおけるモデルグループの朗読を改善した際の視点を確認させ、どの語句や表現にこだわって、どのような工夫を取り入れることができるかを検討させる。 <p><達成している生徒への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の朗読を例として示しながらアドバイスを伝えられるように準備させる。 	<p>○ 相手グループの朗読の工夫の適否を考慮することで、語句や表現にこだわって登場人物の心情を深く読み取ることができたか。(観察・ワークシート)</p>
5'	<p>グループで話し合ったことを基にアドバイスを伝え合う。 5</p> <p>(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「伝える役割」に、相手グループにアドバイスを伝えさせる。 「聞く役割」に、アドバイスを正確に理解できるように必要に応じて質問をするように促す。 	
10'	<p>アドバイスを共有し、吟味しながら、改善策を話し合う。 6</p> <p>(3, 2, 1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「聞く役割」に、相手グループからのアドバイスを説明させ、アドバイスをグループ内で共有させる。 アドバイスを吟味させ、具体的にどの部分を、どのように改善するかを検討させる。 どのようなアドバイスを受け、どう改善していくことになったのかを発表させる。 	<p>○ 受けたアドバイスを生かして、効果的な朗読の工夫について考え、改善策について話し合うことができたか。(観察・発表・ワークシート)</p>
5'	<p>学習のまとめをし、次時の学習について確認する。 7</p> <p>ゴール</p>	<p><終末></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を通して分かったことをワークシートに書き、発表させる。 次の時間は、具体的な改善をしながら朗読を練り上げていくことを確認させる。 	